

インディペンデントシアター公演実施ガイドライン Ver.3 2023.5.19 改訂

新型コロナウイルス感染症との闘いも3年を過ぎ、2023年5月8日以降、感染症法上の位置づけが5類へ引き下げとなり、感染防止対策は大きく変わりました。様々な条件が緩和され、コロナ以前の状態に戻せる場面も多く出てくると思います。

しかし一方で新型コロナが無くなったわけでも、感染の心配がなくなったわけでも全くありません。多くの人が軽症で済む反面、命を落とす人やその後の人生に影響する後遺症が残る人もいる危険な病気であることは変わりありません。

これからも決して油断することなく、必要な感染防止対策に注視しつつ、公演関係者と来場者の健康と安心を守り、表現活動を継続していけるように、当劇場では引き続き公演実施ガイドラインを改訂して使用いたします。

このガイドラインは、公演の主催団体に関しては準備段階と劇場使用前後、ご来場頂くお客様にはご来場前後にお守り頂く内容となります。

劇場・劇場利用者・観客の三者でガイドラインをお守りいただくことで、劇場での感染リスクを可能な限り下げの方策です。

このガイドラインも今後の状況の変化や、他劇場・他業界の事例などを踏まえて変更される場合がございます。劇場のご利用・ご来場前には、変更が無いが再度ご確認ください。

いわゆる「業種別ガイドライン」は廃止となりましたが、各事業者が必要に応じてガイドラインを策定し、利用者等に要請する事は認められています。

※重要なポイントや改定で追加記載・修正された項目などは**赤文字** となっています。

これまで、感染防止ガイドラインの重要なポイントは「万一にも公演関係者(出演者やスタッフ)から、観客に感染させることが無いように」という点でしたが、5類への引き下げで、無症状・無自覚の感染者が市中に増加する懸念が高まっています。一方、公演中止などに伴うコロナ禍での支援や助成制度はほぼ終了しました。万一の際の損害は完全に公演主催者にかかって来る形になります。これからは「いかにして座組を感染リスクから守るか」という部分にも重点を置いて対策を考える必要があります。

●公演実施団体をお願いする事(前提)

- ・下記の対応を行っていただけない場合、公演の実施をお断りする場合があります。
- ・公演関係者全員が公演の実施・参加に同意している事を事前に必ず確認してください。
- ・感染症の急速な拡大などに伴い、劇場を休館(=公演を延期・中止)あるいは、開演時間・客席数上限の変更をせざるを得ない可能性があります。それらの指示・要請にはお従い下さい。

公演準備開始フェーズ

●公演関係者全員に、公演の実施や参加について同意しているか改めて確認する。

●稽古場、劇場に出入りする出演者及びスタッフ全員の感染リスクを確認する。

公演の準備を開始するにあたって、稽古場・劇場に出入りする公演関係者全員(仕込み・バラシ・受付等で一時的に参加する人も含めて)が、感染が確認された場所、感染された方、及びその濃厚接触者の方と接触していないことを確認する。また**過去1週間以内**に感染が引き続き拡大している国や地域へ訪問していないかも確認し、公演準備開始以後はそれらの地域を訪問しないようにご注意ください。その後も随時確認を継続し、該当したタイミングで公演準備継続に問題が無いか協議して下さい。

●公演の実施に関わる人はワクチン接種を推奨する。

ワクチンを3回以上接種した人の感染者発生率や重症化率は接種していない場合に比べて、明確に低下していることがデータからも明らかです。公演関係者間はもちろん、公演関係者から観客に感染する事は絶対に避けなくてはなりません。公演に従事する人はワクチンの接種を推奨するようにして下さい。(ただし、ワクチンの接種に関しては自由意志であり、健康上の理由から接種できない人やワクチンが体に合わない人もいる点には配慮し強制しないで下さい。)

公演稽古フェーズ

●稽古段階で注意すべきこと。

稽古段階で感染が発生した場合、タイミングによっては公演実施できませんので、感染防止策にしっかり取り組んで下さい。劇場入り前の事ですので強制ではありませんが、演劇界全体で取り組むべきスタンダードとして確立されつつあります。遵守して下さい。

- ・稽古での密集を避けるために、普段よりも少しサイズの広い稽古場での稽古を検討する。
- ・稽古場へ入る前までに各自検温を実施し、37.5度を超える場合は、その日の参加を見合わせる。
- ・いわゆる新型コロナが疑われる体調(発熱・咳・扁桃痛・倦怠感・味覚障害など)がある場合は稽古参加不可。
- ・陽性者や濃厚接触者が発生した場合には、すみやかに劇場に報告するとともに、稽古を一時中断し、関係者の健康状態を確認する。場合によっては抗原検査やPCR検査を実施し、慎重に稽古を再開する。
- ・稽古場に入る前には手洗いうがいやアルコール消毒を実施する。
- ・マスク着用は個人の判断ではあるが、安全と自衛措置を考えて演技中以外の待機や休憩時はマスク着用を推奨する。
- ・喫煙所や休憩所など、マスクを外す場面では、なるべく距離を取り密を避けるように注意する。
- ・稽古後のミーティングや飲食交流などはなるべく減らし、実施する場合も人数を絞ったり短時間にする、すいている店や外部の人との接触を極力減らせる場所を選ぶなど十分に注意を払う。

劇場入り直前フェーズ

●公演関係者に確実に連絡が取れる体制を取る。

座組内で陽性者が出たり、体調不良者が出て健康状況の確認が必要になった場合などに、確実に連絡が取れる体制を取って下さい。従来は公演関係者リストを提出して頂いていましたが、保健所等でも追跡調査等を実施しない体制となったため、提出は不要です。公演主催者が責任をもって座組に必要な連絡が取れるように準備を整えて下さい。

●劇場利用期間中の消毒備品や衛生用品などをしっかりと準備する。

マスクやアルコール消毒薬など、公演期間中に不足したりしないように十分用意しておいてください。感染状況などが急速に悪化し、入手困難になる可能性もありうるので、事前の準備が重要です。劇場でもある程度備蓄していますが、あくまで緊急用とご理解下さい。

劇場使用フェーズ

●出演者及びスタッフは、自身の健康状態をシビアにチェックし、少しでも不安要素のある場合は冷静に申告し、病院を受診するなど安全を確かめて下さい。

劇場に入る公演関係者全員は毎日、自宅・宿泊先などの出発前及び小屋入り時に検温をおこない、**小屋入り時の検温**に関しては必ず記録を付ける。

風邪などの症状や37.5℃前後(あるいは平熱から1℃以上プラス)の発熱、咳、喉の痛み、強いだるさ(倦怠感)や息苦しさ、味覚や嗅覚の異常などがある場合は、団体の責任者に申告する。申告があった場合、団体の責任者はすみやかに劇場に報告し、病院の受診や以後の対応(公演の続行・中止・延期)について協議する。

[重要]5類に引き下げになったからと言って陽性者が出演したりスタッフワークを担う事が許されるわけではありません。これは新型コロナに限らずインフルエンザ等のその他の感染症でも同様です。

●劇場施設内ではマスク着用のうえ、相互になるべく距離を取って下さい。

原則舞台上(リハーサルや本番)以外の場面では、基本的にマスク着用とし、人と人との距離もなるべく取って、密にならないように注意し、舞台上以外での濃厚接触を避けるように気を付ける。マスクを使用する際は正しく着用するよう、お互いに注意しあう。

ただし、仕込みやバラシなど、身体に負担のかかる場面では、団体内で感染リスクをしっかりと検証した上で、マスクの使用を判断する。

●食事の提供は弁当など個包装されたものを推奨し、ケータリング形式の場合は以下の注意事項を遵守する。

・飛沫感染・接触感染の可能性を最小限にするため、食事の提供は弁当など個包装されたものを推奨する。

・食事の際は各々距離を取ったり対面しないようにするなど工夫して安全に努める。

・ケータリング方式を実施する場合は、以下の条件を遵守する。

A:ケータリングの専任担当者を置きケータリングスペースに基本常駐する。観客と接触するような他の業務(受付・物販など)を兼務しない。

B:配膳は各自で取らずケータリング担当者が取り分ける、もしくは利用者は使用前に手指消毒しマスク着用で利用する。

C:原則使い捨ての紙皿やコップなどを使用し、再利用しない。

飲食物に限らず、ゴミは量が少なくても毎日劇場退出時に指定場所に廃棄する。ゴミの取り扱い時にはマスクを必ず着用し、作業終了後には手洗いをを行う。

●劇場の換気等を十分に行い、清掃や消毒など可能な限りの感染予防策をとってください。

リハーサル中、上演中とも劇場内の換気扇は常時 ON としておく。当劇場は客席はもちろんロビーや楽屋にも基準をクリアした換気設備が設置されています。こちらも常時使用し換気に努める。また開場前や公演終了後には客席内・トイレ・ロビー等関係者・お客様が接触する範囲の清掃や消毒などをおこなう。

また受付・入場時の手指消毒は、主催者・お客様の任意としますが、希望されるお客様が使用できるように、受付や客席入口・トイレ前など、必要に応じて劇場施設の随所にお客様が使用できる消毒液などを用意して下さい。

●お客様の接客にあたるスタッフは、マスクを着用して下さい。また、一般的な咳・くしゃみエチケットを主催者・観客ともに厳守するように呼び掛けてください。

お客様の接客にあたるスタッフは、原則マスクを着用して下さい。受付カウンターの飛沫防止ビニールの使用は任意とします。当劇場では、マスク任意化後もお客様にはご来場される高齢者や重症化リスクの高い方など多様な方の安心、そして座組を感染リスクから守るために、原則劇場施設内ではマスクの着用をお願いしています。マスク着用にご協力いただけないお客様には、上記の理由を丁寧に説明頂き、ご協力をお願いして下さい。ただし、どうしてもご納得頂けない場合、マスク無しの入場を妨げるものではございません。その場合は、他のお客様とのトラブルを避けられるように案内する座席などをご配慮下さい。

団体側で可能であれば、当日窓口の混雑を防ぎ、お金のやり取りなどを減らすために、予約時の事前決済や窓口でのキャッシュレス決済を利用する。(公演計画時にあらかじめご相談頂ければ劇場側でアドバイスや対応できる場合があります。)半券などお客様にお渡しするものも安全かつ最小限にできるように工夫して下さい。

●受付や客席入場の整列は十分な距離を取れるようにお客様を誘導して下さい。

受付や、客席に入場する列は、お客様同士が触れ合わない程度の距離が取れるように、整列の案内をして下さい。わかりやすく案内するための表示の一部は劇場でもご用意します。可能であれば、検温などに伴う受付の混雑を緩和するた

めに、受付時間を早めに設定し、また受付後速やかに客席に入場できるタイムスケジュールの設定をご検討下さい。

●発熱・咳・全身痛などの症状で体調のすぐれないお客様には、ご来場を辞退していただいでください。

発熱、咳、喉の傷み、強いだるさ(倦怠感)や息苦しさ、味覚や嗅覚の異常などの症状で体調のすぐれないお客様にはご来場を辞退していただくように事前に案内をおこなう。公演来場時に検温を実施するかどうかは主催者の任意とします。実施する場合、37.5℃(あるいは平熱よりプラス1℃)以上のお客様にはご入場を辞退していただく。

体調不良の来場辞退や、当日検温での辞退などのお客様には払い戻し等で不便の無いように配慮してください。

●客席数の設定は、感染拡大状況により、行政や劇場の要請に従って、設定して下さい。当日券の販売は慎重に。

5類変更後も急速な状況の悪化によっては、行政の指導や要請により客席数の削減を行う可能性がございます。いずれにしても、チケット発売前に必ず劇場に使用予定の客席数を確認してください。これまで当劇場では、お客様の安全と心理的な安心にも配慮して50%→75%と慎重に客席数を緩和してきましたが、2022年3/22以降は100%使用可能としています。舞台ツラもしくはアクティングエリアから客席最前列の距離は2mを推奨、必ず1m以上とします。距離が2mを切る座席を設定する場合は、必ずその旨をチラシやWEBサイトなどで告知し、距離の取れている席を希望するお客様が選択できるようにしてください。

当日券を販売する場合は、希望者の殺到で密が発生したり、規定席数を超えて入場できない事態が発生したりしないように、予め正確な販売数を告知したり、開演数時間前までの当日券予約の方式を取るなどの対策をとり、不用意にお客様の来場リスクが発生する事の無いように十分配慮して下さい。

●原則、来場者を把握、必要時には連絡できるように準備して下さい。

新型コロナへの保健所の対応の変化などにより、陽性者や濃厚接触者の行動追跡などは行われなくなりました。

それに伴い、お客様リストの整備や必要時のお客様への連絡は必須ではなくなりました。しかしながら、万一の事態が発生した場合、お客様に注意を喚起することは公演主催者の誠意だと当劇場は考えます。(SNS等での告知は、見逃したり確認できないお客様などもあるため、原則は直接連絡が適切だと考えます。)

従いまして、名簿の整理まで必要としませんが、ご予約時にお客様のお名前・お電話番号 or メールアドレスは記録に残すようにして下さい。(ご予約フォーム等でお客様にご記入頂くようにすれば、新たな作業は発生しません。)複数枚の予約でも予約代表者の連絡先が分かれば十分です。

来場者の予約情報は個人情報となりますので、団体側で厳重に管理して下さい。

●マスクの正しい着用や、客席・ロビー内での会話を控えめにして頂くなどお客様にうながして下さい。

マスクは正しく着用していなければ効果を発揮しません。鼻が出ているなどマスクの着用が適切でないお客様は、周囲のお客様に不安や不信感を与え、またお客様同士の不要なトラブルなどに繋がる可能性もある為、客席誘導スタッフなどがお声がけするようにして下さい。またお客様同士の客席内やロビーでの会話も節度を保って頂けるようにし、周囲のお客様が不安や不快に感じるような場面では、お客様に注意をうながすようにして下さい。

●劇場退出時に、混雑しないようにご注意下さい。

劇場の出入り口や移動ルートは限られているため、一斉に退場すると混雑(密)が発生する場合があります。現状は、規制退場まで実施する必要はないと考えますが、お客様が密にならないようにスタッフが声がけするなど配慮して下さい。

●出演者による面会は十分対策をとって実施し、グッズ販売はスタッフが対応して下さい。

グッズの販売は必ず制作・受付などのスタッフが対応して下さい。出演者などが購買案内などの為に物販コーナーに立つ場合は、必ずマスクを着用してお客様と距離を取り、握手や受け渡しなどの接触は避けて下さい。

出演者との面会は、感染リスクと公演継続の安全性を鑑みて推奨できかねますが、実施する場合は必ず出演者・観客の両者マスク着用の上で距離を取り、接触は避けるようにしてください。また一度に面会場所に入る人数を制限するなど面会場所が密にならないように注意し、必ず面会状況を管理するスタッフを配置して下さい。商業公演などのように面会を予約制にすることを推奨いたします。

アンケートは回収BOXを使用するなど接触機会の軽減を図るか、オンラインアンケートや SNS などの方法も合わせて検討して下さい。

●プレゼントや差し入れなどの受け取りは接触機会を軽減して下さい。

プレゼントや差し入れなどを受け取る場合は、以下の点に注意し、お客様にも周知して下さい。

- ・本人への直接の受け渡しはできない旨を周知し、できればロビー設置のプレゼント BOX などを使用する。(双方の安全の為にロビースタッフなどの接触機会を軽減する)
- ・差し入れやプレゼントは、本人に渡す前に制作スタッフが確認し、手作りの食品や安全の確認できないものなどは渡せない(場合により破棄される)可能性があることを周知。(コロナに関係なくキャストを守るために必要です。)
- ・受け取りの範囲などでお客様に不信感を与えないように配慮し平等に対応する。

公演終了後フェーズ

●公演終了後の健康状態を確認し必要があれば劇場に報告する。

公演関係者は、公演が終了しても油断せず、各自が感染防止に取り組みつつ仕事や活動に取り組んで下さい。特に公演の疲れや油断などで感染するリスクに気を付けて下さい。公演や現場が連続するキャストやスタッフも多いので、お互いに配慮しましょう。公演終了後に、関係者の体調不良などがあれば、座組に注意を喚起するようにしましょう。陽性者が発生した場合は、即座に劇場に報告して下さい。

また、お客様からのご来場後の体調不良や感染報告があった場合には必ず劇場にも情報を共有して下さい。

インディペンデントシアター

[感染症対策の備品について]

消毒薬などの衛生用品は劇場でも準備いたしますが、商品不足等で劇場備蓄も不足する場合がありますので、団体側でもご用意にご協力をお願いいたします。検温器等は、使用中の故障などのトラブルに対処するため、原則使用するのは利用団体のもの、劇場のものはトラブル時の貸し出し用のバックアップとお考え下さい。

[参考資料] ※業種別ガイドラインは廃止となりましたが、参考として最終版のガイドラインを提示しておきます。

●(公財)全国公立文化施設協会「劇場、音楽堂等における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン改定版」

https://www.zenkoubun.jp/covid_19/files/0313covid_19.pdf?02

●緊急事態舞台芸術ネットワーク「舞台芸術公演における新型コロナウイルス感染予防対策ガイドライン(第九版)」

https://jpasn.net/stage_guideline230308a.pdf